

第4部 在宅介護実態調査

第4部 在宅介護実態調査

この調査の集計にあたり、調査対象者が介護している家族等（以下、「被介護者」という。）の年齢階級・性別・要介護度等の属性は、この調査と合わせて実施した「調査①介護保険居宅サービス利用者調査」または「調査②介護保険サービス未利用者調査」の回答を使用している。

1 主な介護者の状況について

（1）主な介護者と被介護者との関係

問1 封筒のあて名の方を主に介護している方（主な介護者）は、どなたですか。○をつけてください。

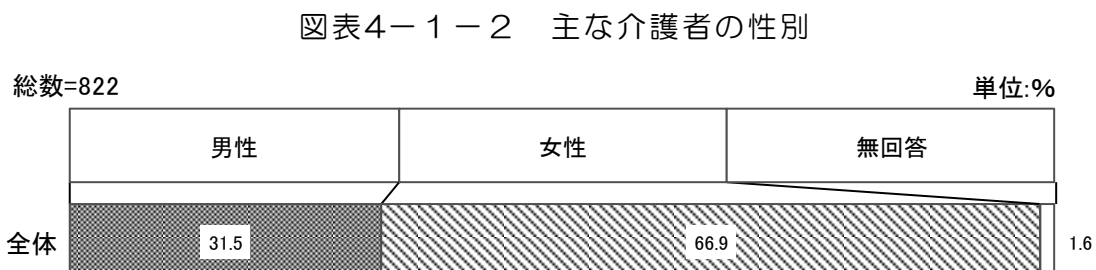
主な介護者は、「子」の割合が48.3%で最も高く、次いで「配偶者」が34.8%、「子の配偶者」が4.7%、「兄弟・姉妹」が3.8%となっている。



（2）主な介護者の性別

問2 主な介護者の方の性別を教えてください。（○は1つ）

主な介護者の性別は、「女性」が66.9%、「男性」が31.5%となっている。

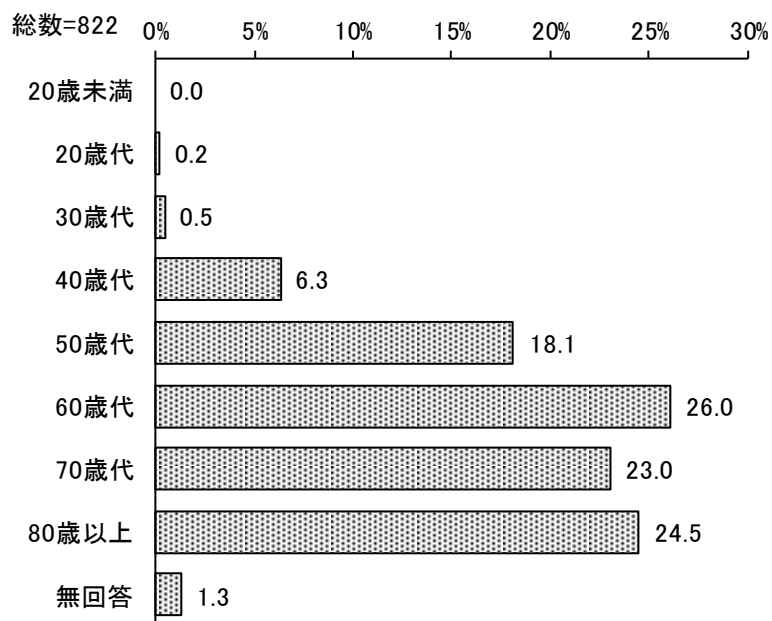


(3) 主な介護者の年齢

問3 主な介護者の方の年齢を教えてください。(〇は1つ)

主な介護者の年齢は、「60歳代」の割合が26.0%と最も高く、次いで「80歳以上」が24.5%、「70歳代」が23.0%となっている。

図表4-1-3 主な介護者の年齢



主な介護者の年代別に被介護者の年齢階級をみると、被介護者の年齢階級の比率が最も高いのは、50歳代の介護者では「85～89歳」が40.3%、60歳代では「90歳以上」が47.7%、70歳代では「75～79歳」が27.0%、80歳以上では「85～89歳」が32.8%となっている。

図表4-1-4 被介護者の年齢階級（主な介護者の年代別）

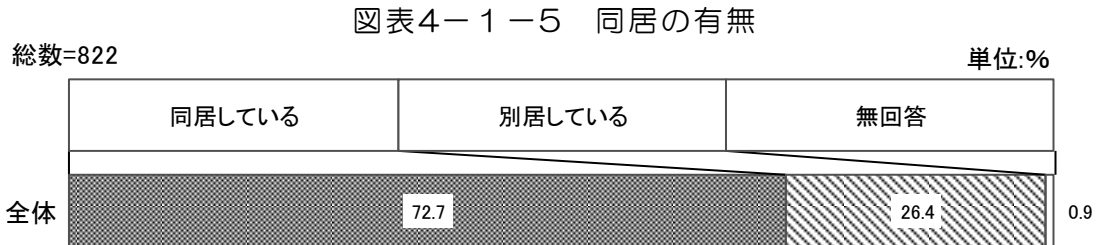
(上段：回答数、下段：構成比)

		全体	被介護者の年齢階級							
			64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答
全体		822 100.0	28 3.4	22 2.7	40 4.9	89 10.8	153 18.6	209 25.4	214 26.0	67 8.2
主な介護者の年代	20歳未満	- 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	1 50.0	-	-
	30歳代	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	-	-	-
	40歳代	52 100.0	3 5.8	-	3 5.8	17 32.7	12 23.1	6 11.5	4 7.7	7 13.5
	50歳代	149 100.0	6 4.0	1 0.7	-	5 3.4	43 28.9	60 40.3	21 14.1	13 8.7
	60歳代	214 100.0	10 4.7	10 4.7	9 4.2	5 2.3	10 4.7	57 26.6	102 47.7	11 5.1
	70歳代	189 100.0	2 1.1	7 3.7	25 13.2	51 27.0	37 19.6	17 9.0	39 20.6	11 5.8
	80歳以上	201 100.0	5 2.5	3 1.5	2 1.0	8 4.0	49 24.4	66 32.8	46 22.9	22 10.9
	無回答	11 100.0	-	-	-	3 27.3	1 9.1	2 18.2	2 18.2	3 27.3

(4) 被介護者との同居の有無

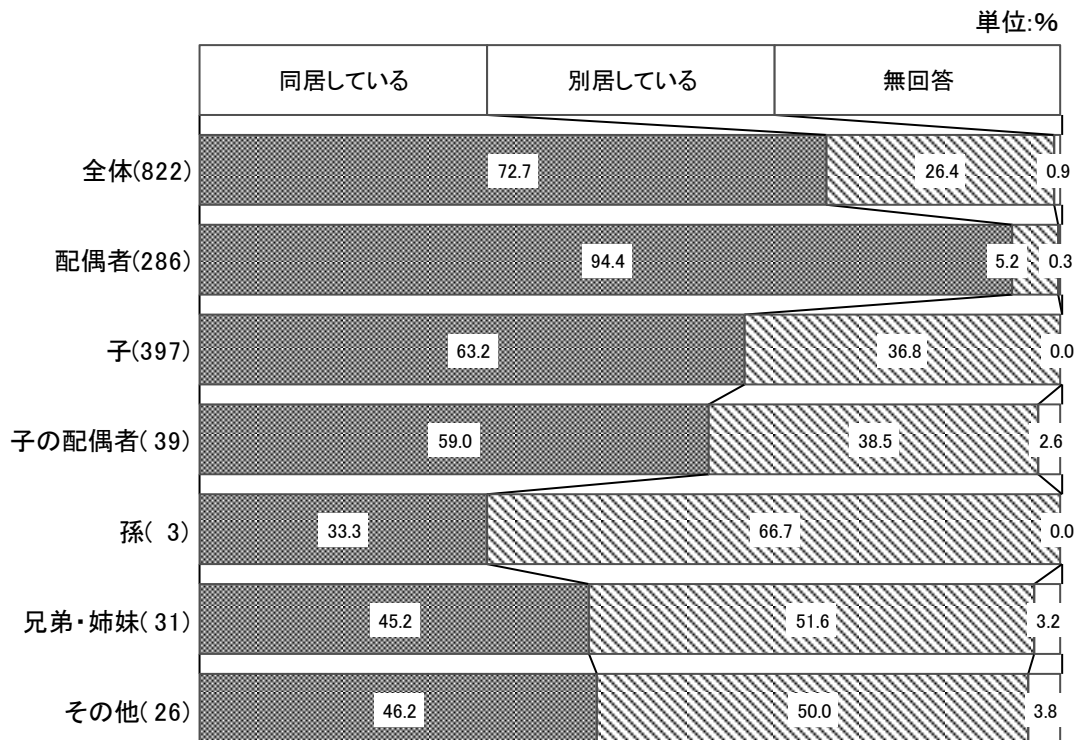
問4 主な介護者の方は、封筒のあて名の方と同居されていますか。(〇は1つ)

「同居している」が72.7%、「別居している」が26.4%となっている。



同居の有無を主な介護者と被介護者の関係にみると、「同居している」と回答した割合は「配偶者」が94.4%で最も高く、次いで「子」が63.2%、「子の配偶者」が59.0%となっている。

図表4-1-6 同居の有無（被介護者との関係別）



(主な介護者が無回答の40人は掲載していない)

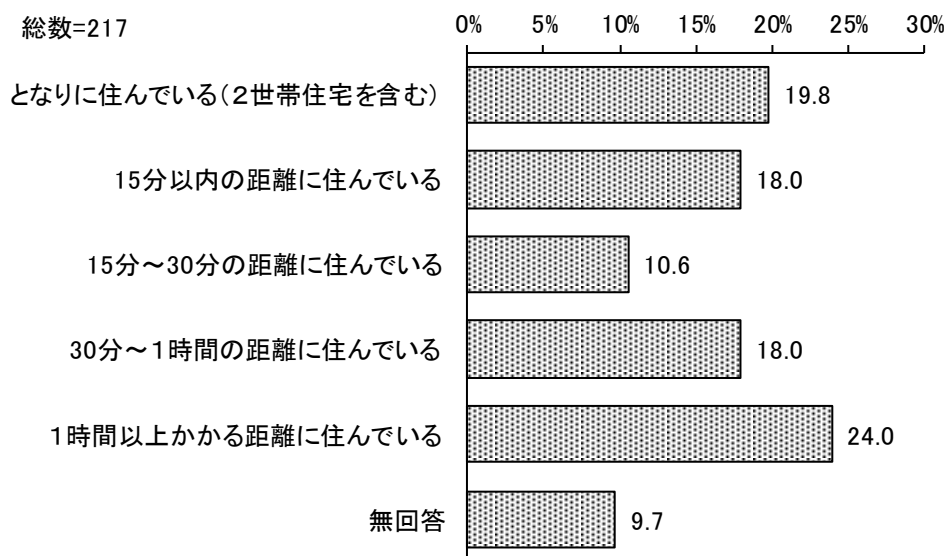
【問4で「2. 別居している」と回答した方におたずねします。】

問4-1 主な介護者の方はどちらにお住まいですか。(〇は1つ)

※通常使用する交通手段による時間でお答えください

別居している場合の主な介護者と被介護者との距離は、「1時間以上かかる距離に住んでいる」の割合が24.0%で最も高く、次いで「となりに住んでいる(2世帯住宅を含む)」が19.8%、「15分以内の距離に住んでいる」と「30分～1時間の距離に住んでいる」が18.0%となっている。

図表4-1-7 主な介護者と被介護者との距離



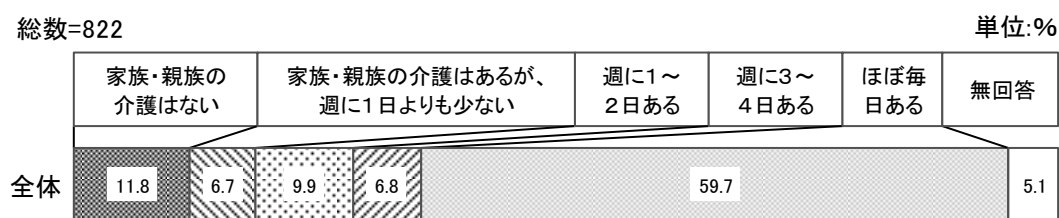
2 家族介護の状況について

(1) 家族介護の状況

問5 封筒のあて名の方に対するご家族や親族の方の介護は、週にどのくらいありますか。(〇は1つ)

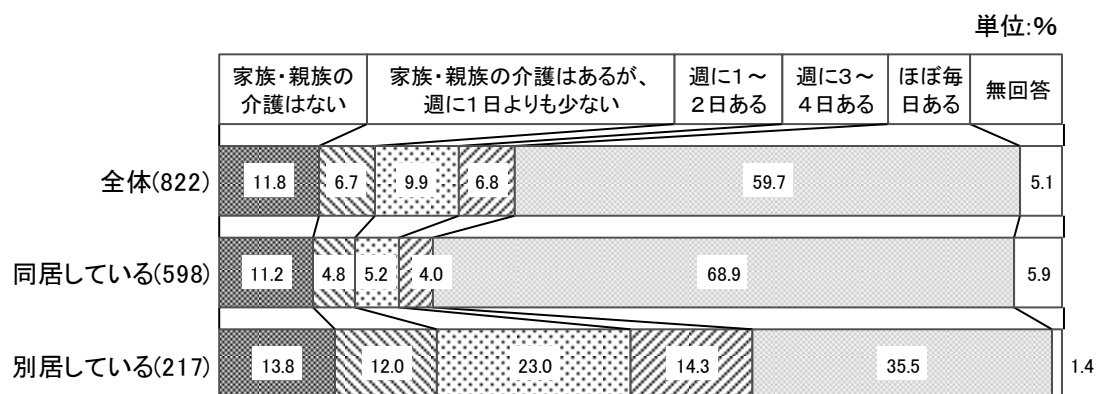
週当たりの介護の日数は、「ほぼ毎日ある」の割合が59.7%で最も高く、次いで「家族・親族の介護はない」が11.8%、「週に1～2日ある」が9.9%となっている。

図表4-2-1 週あたりの家族介護の日数



家族介護の日数を同居の有無別にみると、同居している場合は「ほぼ毎日ある」が68.9%で最も高い。また、別居している場合は「ほぼ毎日ある」が35.5%で最も高いが、「週に1～2日ある」が23.0%、「週3～4日ある」が14.3%となっている。

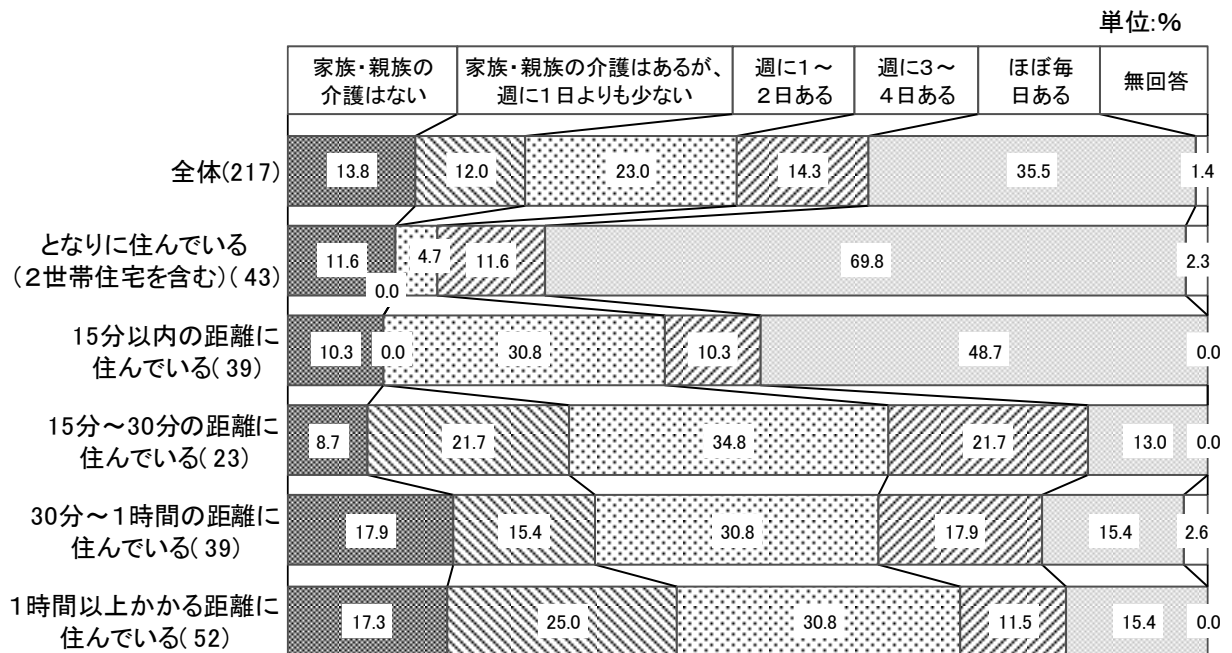
図表4-2-2 週あたりの家族介護の日数（同居の有無別）



(同居の有無が無回答の7人は掲載していない)

家族介護の日数を、別居している場合の主な介護者と被介護者との距離にみると、家族介護が「ほぼ毎日ある」は「となりに住んでいる」で69.8%、「15分以内の距離に住んでいる」で48.7%となっており、距離が近いほど週当たりの介護の日数が多い傾向がみられる。一方で、「30分～1時間の距離に住んでいる」と「1時間以上かかる距離に住んでいる」についても15.4%が「ほぼ毎日ある」と回答している。

図表4-2-3 週あたりの家族介護の日数（被介護者との距離別）



(主な介護者の住まいが無回答の21人は掲載していない)

家族介護の日数を被介護者の要介護度別にみると、家族介護が「ほぼ毎日ある」は要介護度にかかわらず高い傾向にあり、要介護1・2では50%強、介護3以上で65.6%～77.7%となっている。

図表4-2-4 週あたりの家族介護の日数（要介護度別）

（上段：回答数、下段：構成比）

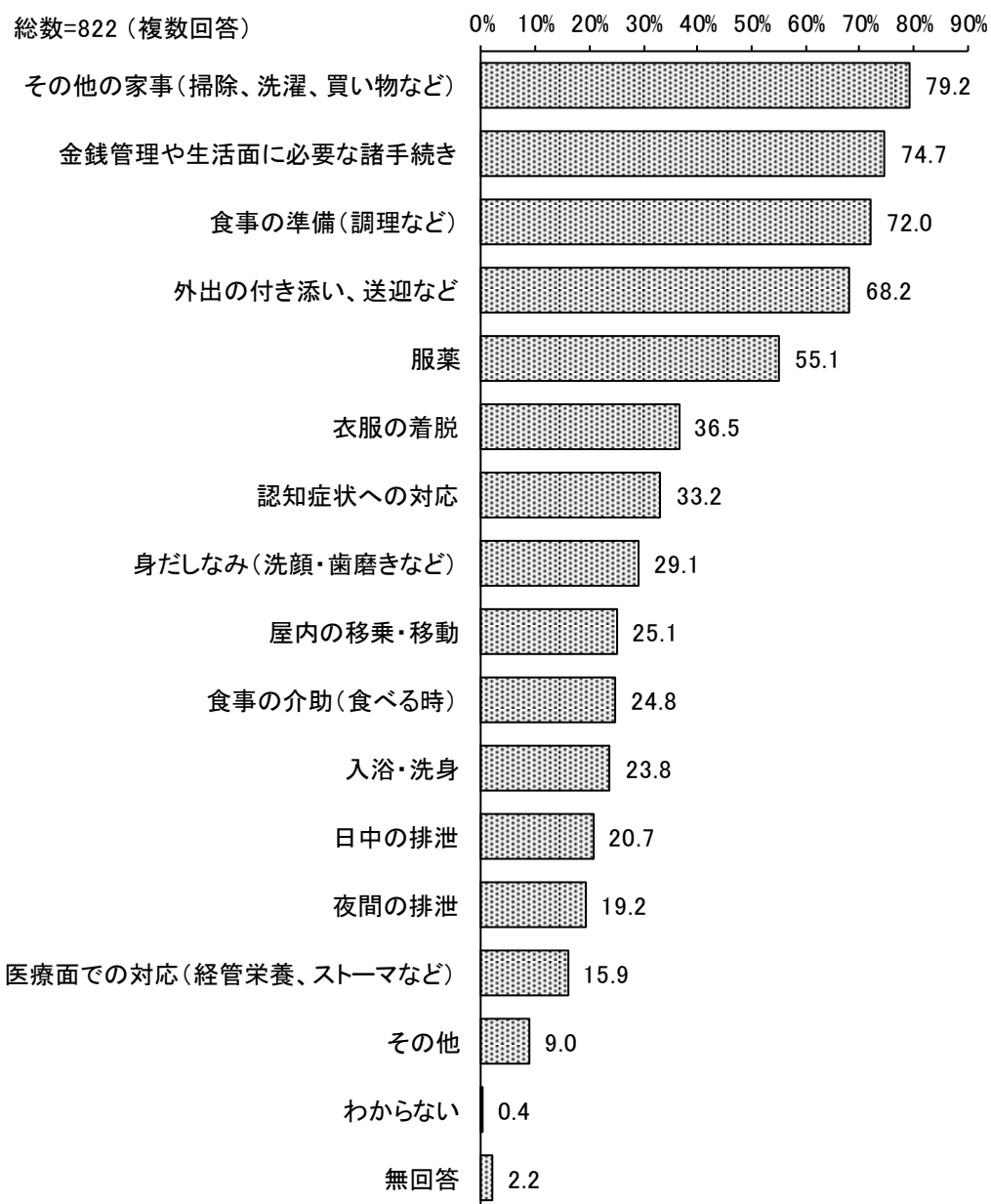
	全体	家族・親族の介護はない	家族・親族の介護はあるが、週に1日以下	週に1～2日ある	週に3～4日ある	ほぼ毎日ある	無回答	
全体	822 100.0	97 11.8	55 6.7	81 9.9	56 6.8	491 59.7	42 5.1	
被介護者の要介護度	要介護1	222 100.0	32 14.4	26 11.7	15 6.8	12 5.4	122 55.0	15 6.8
	要介護2	244 100.0	22 9.0	18 7.4	32 13.1	21 8.6	140 57.4	11 4.5
	要介護3	112 100.0	8 7.1	3 2.7	4 3.6	8 7.1	87 77.7	2 1.8
	要介護4	78 100.0	9 11.5	1 1.3	8 10.3	4 5.1	52 66.7	4 5.1
	要介護5	61 100.0	10 16.4	1 1.6	6 9.8	1 1.6	40 65.6	3 4.9
	要支援1・2、サービス事業対象者	15 100.0	3 20.0	1 6.7	4 26.7	-	7 46.7	-
	わからない	6 100.0	1 16.7	-	-	-	4 66.7	1 16.7
	無回答	84 100.0	12 14.3	5 6.0	12 14.3	10 11.9	39 46.4	6 7.1

(2) 主な介護者が行っている介護の内容

問6 現在、主な介護者の方が行っている介護などについて、ご回答ください。(〇はいくつでも)

主な介護者が行っている介護の内容は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物など）」が79.2%で最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が74.7%、「食事の準備（調理など）」が72.0%となっている。

図表4-2-5 主な介護者が行っている介護の内容



主な介護者が行っている介護の内容を主な介護者の性別でみると、男女で回答割合に差があるのは「食事の準備（調理など）」や「衣類の着脱」で、女性が男性を10ポイント程度上回っている。

主な介護者の年代別にみると、それぞれの介護を行っている割合は、60歳代または70歳代が最も高くなっている。

図表4-2-6 主な介護者が行っている介護の内容（性別・年代別）

	全体	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助 (食べる時)	入浴・洗身	顔・身だしなみ (洗面・歯磨きなど)	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、 送迎など	
全体	822 100.0	170 20.7	158 19.2	204 24.8	196 23.8	239 29.1	300 36.5	206 25.1	561 68.2	
主な介護者の性別・年代別	男性全体	258 100.0	46 17.8	42 16.3	64 24.8	56 21.7	61 23.6	79 30.6	58 22.5	169 65.5
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	15 100.0	2 13.3	1 6.7	4 26.7	2 13.3	4 26.7	3 20.0	2 13.3	15 100.0
	50歳代	42 100.0	7 16.7	4 9.5	7 16.7	4 9.5	8 19.0	9 21.4	4 9.5	31 73.8
	60歳代	64 100.0	15 23.4	13 20.3	19 29.7	15 23.4	17 26.6	22 34.4	20 31.3	49 76.6
	70歳代	57 100.0	12 21.1	13 22.8	13 22.8	16 28.1	20 35.1	24 42.1	18 31.6	32 56.1
	80歳以上	80 100.0	10 12.5	11 13.8	21 26.3	19 23.8	12 15.0	21 26.3	14 17.5	42 52.5
	女性全体	546 100.0	123 22.5	116 21.2	138 25.3	138 25.3	176 32.2	219 40.1	147 26.9	385 70.5
	20歳代	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0
	30歳代	4 100.0	-	-	-	-	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0
	40歳代	36 100.0	6 16.7	5 13.9	8 22.2	4 11.1	8 22.2	9 25.0	6 16.7	26 72.2
	50歳代	107 100.0	16 15.0	17 15.9	25 23.4	23 21.5	30 28.0	38 35.5	30 28.0	83 77.6
	60歳代	148 100.0	41 27.7	33 22.3	45 30.4	38 25.7	52 35.1	63 42.6	44 29.7	110 74.3
70歳代	130 100.0	30 23.1	33 25.4	33 25.4	39 30.0	50 38.5	56 43.1	40 30.8	95 73.1	
80歳以上	119 100.0	28 23.5	26 21.8	26 21.8	33 27.7	33 27.7	51 42.9	25 21.0	68 57.1	
無回答	18 100.0	1 5.6	-	2 11.1	2 11.1	2 11.1	2 11.1	1 5.6	7 38.9	

(上段：回答数、下段：構成比)

	服薬	認知症状への対応	医療面での対応 (経管栄養、ストーマなど)	食事の準備 (調理など)	除、洗濯、買い物 などの家事	金銭管理や生活面に 必要な諸手続き	その他	わからない	無回答	
全体	453 55.1	273 33.2	131 15.9	592 72.0	651 79.2	614 74.7	74 9.0	3 0.4	18 2.2	
主な介護者の性別・年代別	男性全体	135 52.3	75 29.1	46 17.8	168 65.1	194 75.2	189 73.3	24 9.3	3 1.2	4 1.6
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	7 46.7	4 26.7	1 6.7	10 66.7	12 80.0	10 66.7	-	-	-
	50歳代	25 59.5	16 38.1	4 9.5	26 61.9	32 76.2	31 73.8	5 11.9	1 2.4	-
	60歳代	35 54.7	19 29.7	13 20.3	46 71.9	52 81.3	53 82.8	5 7.8	-	1 1.6
	70歳代	30 52.6	13 22.8	12 21.1	36 63.2	43 75.4	42 73.7	7 12.3	-	1 1.8
	80歳以上	38 47.5	23 28.8	16 20.0	50 62.5	55 68.8	53 66.3	7 8.8	2 2.5	2 2.5
	女性全体	312 57.1	195 35.7	85 15.6	415 76.0	446 81.7	413 75.6	47 8.6	-	12 2.2
	20歳代	2 100.0	-	-	2 100.0	2 100.0	1 50.0	-	-	-
	30歳代	1 25.0	1 25.0	-	2 50.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0
	40歳代	15 41.7	17 47.2	4 11.1	19 52.8	26 72.2	23 63.9	3 8.3	-	2 5.6
	50歳代	64 59.8	49 45.8	22 20.6	79 73.8	91 85.0	89 83.2	10 9.3	-	-
	60歳代	86 58.1	57 38.5	19 12.8	117 79.1	126 85.1	116 78.4	15 10.1	-	2 1.4
	70歳代	78 60.0	40 30.8	23 17.7	110 84.6	114 87.7	102 78.5	8 6.2	-	1 0.8
	80歳以上	66 55.5	31 26.1	17 14.3	86 72.3	85 71.4	81 68.1	10 8.4	-	6 5.0
	無回答	6 33.3	3 16.7	-	9 50.0	11 61.1	12 66.7	3 16.7	-	2 11.1

主な介護者が行っている介護の内容を介護の頻度別にみると、「ほぼ毎日ある」がすべての介護内容で高い割合となっているが、特に、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物など）」、「食事の準備（調理など）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」では85%を超えている。

また、各介護内容とも介護の頻度に応じて行っている割合が高くなるが、排泄・食事の介助・衣類の着脱などの身の回りの世話では、「ほぼ毎日ある」は「週3～4日ある」との開きが大きい。

図表4-2-7 主な介護者が行っている介護の内容（介護の頻度別）

（上段：回答数、下段：構成比）

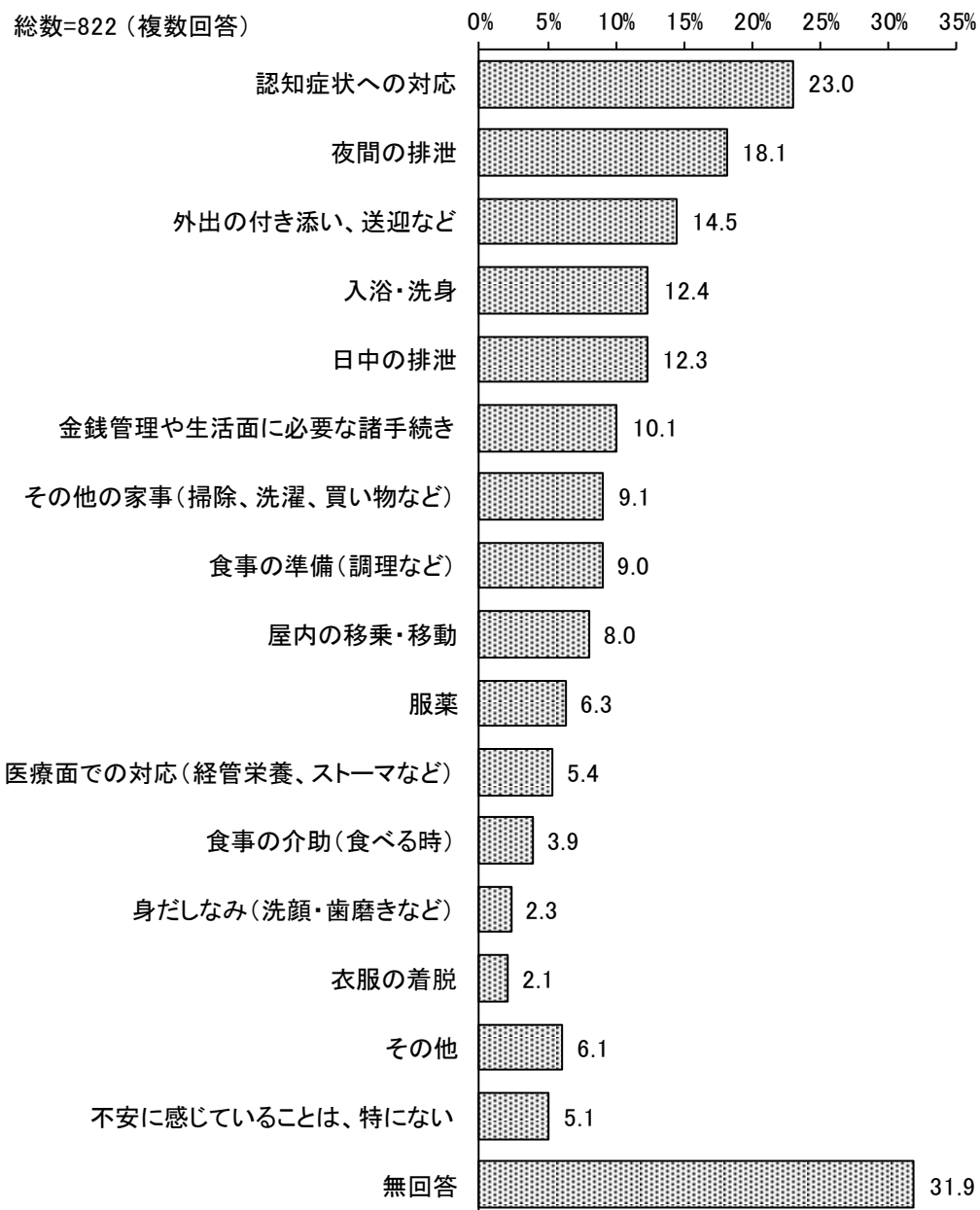
		全体	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助 (食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ(洗 顔・歯磨きなど)	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、 送迎など
全体		822 100.0	170 20.7	158 19.2	204 24.8	196 23.8	239 29.1	300 36.5	206 25.1	561 68.2
介護の頻度	家族・親族の介護はない	97 100.0	13 13.4	12 12.4	13 13.4	12 12.4	21 21.6	19 19.6	10 10.3	48 49.5
	家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない	55 100.0	3 5.5	2 3.6	7 12.7	5 9.1	6 10.9	6 10.9	5 9.1	28 50.9
	週に1～2日ある	81 100.0	7 8.6	5 6.2	14 17.3	13 16.0	8 9.9	8 9.9	14 17.3	56 69.1
	週に3～4日ある	56 100.0	4 7.1	4 7.1	6 10.7	10 17.9	10 17.9	8 14.3	7 12.5	44 78.6
	ほぼ毎日ある	491 100.0	139 28.3	130 26.5	158 32.2	150 30.5	185 37.7	253 51.5	164 33.4	367 74.7
	無回答	42 100.0	4 9.5	5 11.9	6 14.3	6 14.3	9 21.4	6 14.3	6 14.3	18 42.9
		服薬	認知症状への対応	医療面での対応 (経管栄養、 ストーマなど)	食事の準備 (調理など)	その他の家事 (掃除、洗濯、 買い物など)	金銭管理や生活 面に必要な諸 手続き	その他	わからない	無回答
全体		453 55.1	273 33.2	131 15.9	592 72.0	651 79.2	614 74.7	74 9.0	3 0.4	18 2.2
介護の頻度	家族・親族の介護はない	36 37.1	22 22.7	12 12.4	54 55.7	57 58.8	60 61.9	10 10.3	1 1.0	8 8.2
	家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない	19 34.5	12 21.8	4 7.3	20 36.4	28 50.9	30 54.5	6 10.9	-	3 5.5
	週に1～2日ある	22 27.2	17 21.0	8 9.9	32 39.5	61 75.3	44 54.3	9 11.1	-	-
	週に3～4日ある	24 42.9	20 35.7	11 19.6	30 53.6	41 73.2	39 69.6	9 16.1	1 1.8	-
	ほぼ毎日ある	337 68.6	198 40.3	92 18.7	435 88.6	437 89.0	419 85.3	38 7.7	-	2 0.4
	無回答	15 35.7	4 9.5	4 9.5	21 50.0	27 64.3	22 52.4	2 4.8	1 2.4	5 11.9

(3) 主な介護者が不安に感じる介護内容

問7 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護などについて、ご回答ください。(〇は3つまで)

主な介護者が不安に感じる介護内容は、「認知症状への対応」が23.0%で最も高く、次いで「夜間の排泄」が18.1%、「外出の付き添い、送迎など」が14.5%となっている。

図表4-2-8 主な介護者が不安に感じる介護内容

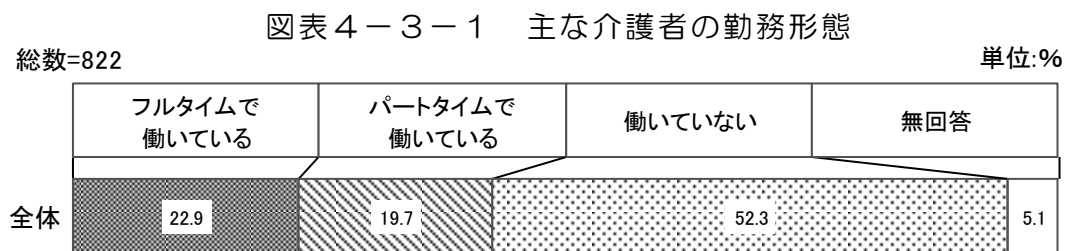


3 主な介護者の就労などについて

(1) 主な介護者の就労の状況、働き方の調整の有無

問8 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(〇は1つ)

主な介護者の勤務形態は、「働いていない」の割合が52.3%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が22.9%、「パートタイムで働いている」が19.7%となっている。



主な介護者の勤務形態を性別にみると、「フルタイムで働いている」は男性が28.3%、女性が20.1%で男性が女性を8.2ポイント上回っており、「パートタイムで働いている」は男性が15.5%、女性が21.6%で女性が男性を6.1ポイント上回っている。

また、主な介護者の性別・年代別にみると、男女とも「フルタイムで働いている」は50歳代が最も高く、「パートタイムで働いている」は40歳代が最も高い。

図表4-3-2 主な介護者の勤務形態（性別・年代別）

(上段：回答数、下段：構成比)

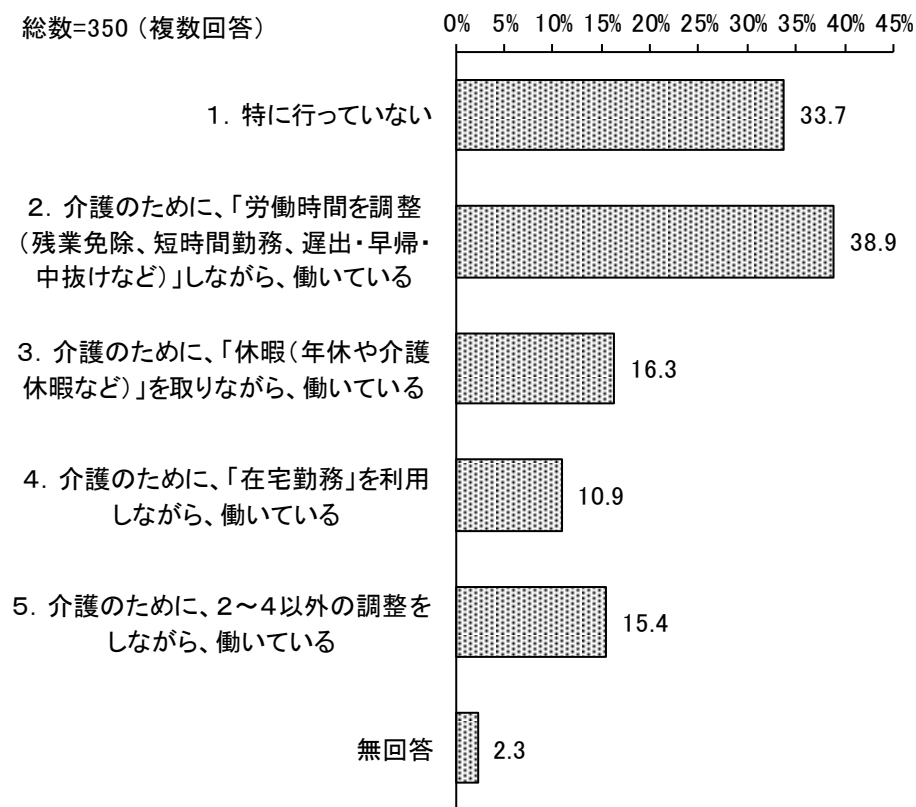
		全体	フルタイムで働いている	パートタイムで働いている	働いていない	無回答
全体		822 100.0	188 22.9	162 19.7	430 52.3	42 5.1
主な介護者の性別・年代別	男性全体	258 100.0	73 28.3	40 15.5	129 50.0	16 6.2
	20歳代	- -	- -	- -	- -	- -
	30歳代	- -	- -	- -	- -	- -
	40歳代	15 100.0	10 66.7	3 20.0	1 6.7	1 6.7
	50歳代	42 100.0	30 71.4	7 16.7	5 11.9	- -
	60歳代	64 100.0	22 34.4	12 18.8	27 42.2	3 4.7
	70歳代	57 100.0	6 10.5	11 19.3	33 57.9	7 12.3
	80歳以上	80 100.0	5 6.3	7 8.8	63 78.8	5 6.3
	女性全体	546 100.0	110 20.1	118 21.6	295 54.0	23 4.2
	20歳代	2 100.0	1 50.0	- -	1 50.0	- -
	30歳代	4 100.0	2 50.0	- -	2 50.0	- -
	40歳代	36 100.0	9 25.0	12 33.3	12 33.3	3 8.3
	50歳代	107 100.0	45 42.1	32 29.9	29 27.1	1 0.9
	60歳代	148 100.0	28 18.9	44 29.7	75 50.7	1 0.7
	70歳代	130 100.0	11 8.5	19 14.6	92 70.8	8 6.2
	80歳以上	119 100.0	14 11.8	11 9.2	84 70.6	10 8.4
無回答	18 100.0	5 27.8	4 22.2	6 33.3	3 16.7	

【問8で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方におたずねします。】

問8-1 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整などを行っていますか。(〇はいくつでも)

主な介護者の働き方の調整は、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）』しながら、働いている」の割合が38.9%で最も高く、次いで「特に行っていない」が33.7%、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇など）』を取りながら働いている」が16.3%となっている。

図表4-3-3 主な介護者の働き方の調整の有無



主な介護者の勤務形態を介護の頻度別にみると、働き方の調整を行う人の割合は介護の頻度が増えていくにつれて高くなり、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）』しながら、働いている」の割合では、介護が「週に1日よりも少ない」が16.0%であるのに対し、「ほぼ毎日ある」は45.7%となっている。

図表4-3-4 主な介護者の働き方の調整の有無（介護の頻度別）
（上段：回答数、下段：構成比）

		1. 特に行っていない	2. 遅出・早帰・中抜けなどしながら、働いている	3. や介護のため、働いている	4. を介護のために、働いている	5. 調整をしながら、働いている	無回答	
全体		350 100.0	118 33.7	136 38.9	57 16.3	38 10.9	54 15.4	8 2.3
介護の頻度	家族・親族の介護はない	32 100.0	15 46.9	8 25.0	4 12.5	4 12.5	5 15.6	1 3.1
	家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない	25 100.0	16 64.0	4 16.0	1 4.0	-	3 12.0	1 4.0
	週に1～2日ある	43 100.0	17 39.5	15 34.9	10 23.3	4 9.3	6 14.0	-
	週に3～4日ある	36 100.0	12 33.3	14 38.9	7 19.4	6 16.7	5 13.9	-
	ほぼ毎日ある	199 100.0	53 26.6	91 45.7	31 15.6	24 12.1	32 16.1	4 2.0
	無回答	15 100.0	5 33.3	4 26.7	4 26.7	-	3 20.0	2 13.3

(2) 仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援

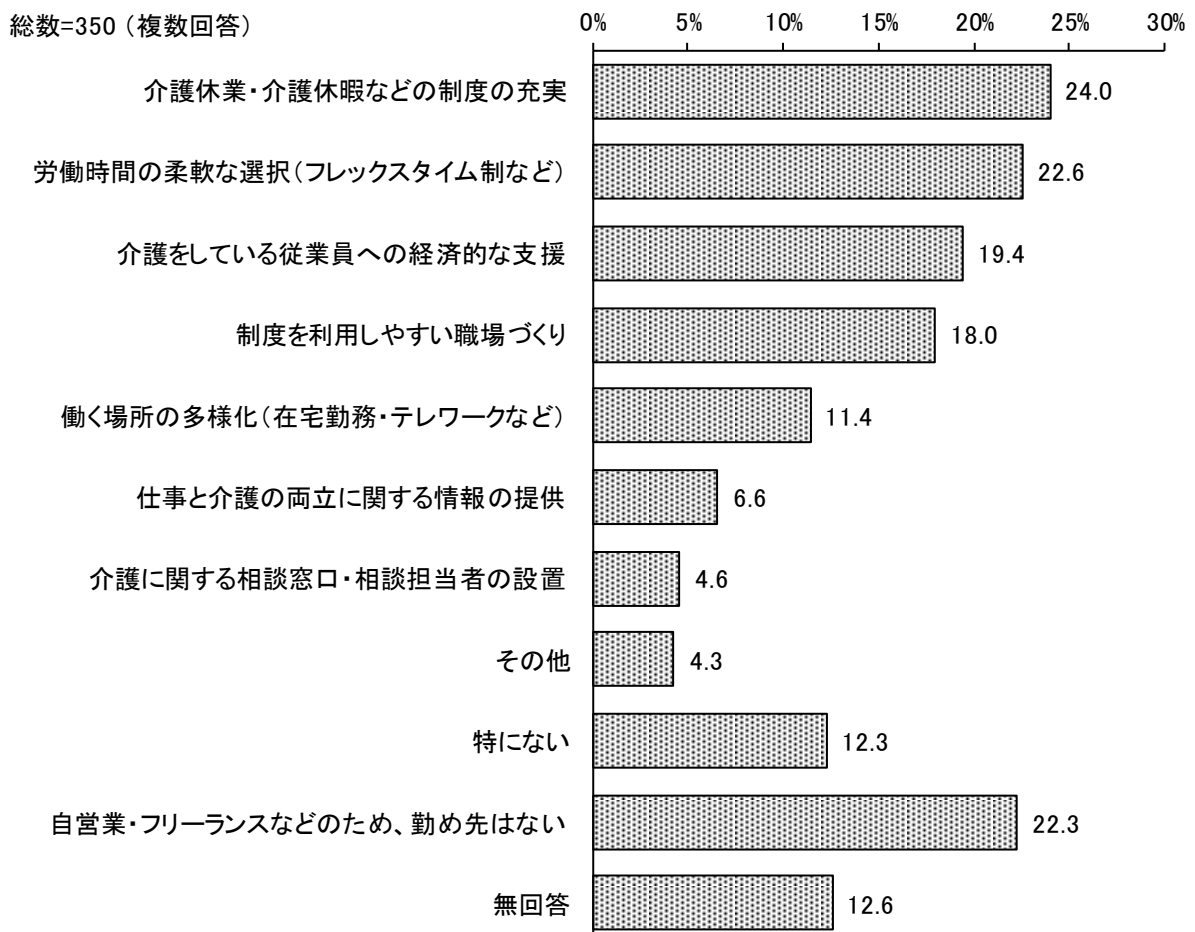
【問8で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方におたずねします。】

問8-2 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(〇は3つまで)

仕事と介護の両立に効果があると思われる勤め先からの支援は、「介護休業・介護休暇などの制度の充実」が24.0%で最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が22.6%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が19.4%となっている。

また、「自営業・フリーランスなどのため、勤め先はない」が22.3%となっている。

図表4-3-5 仕事と介護の両立に効果があると思われる勤め先からの支援



(3) 主な介護者が働きながら介護を続けていける見込み

【問8で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方におたずねします。】

問8-3 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(〇は1つ)

主な介護者が今後も働きながら介護を続けていける見込みは、「問題はあるが、何とか続けていける」と「問題なく、続けていける」を合わせた「続けていける」と回答した人の割合は64.9%となっている。一方で「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた「続けていくのは難しい」と回答した人の割合は16.3%となっている。

図表4-3-6 主な介護者が働きながら介護を続けていける見込み
 総数=350 単位:%

	問題なく、続けていける	問題はあるが、何とか続けていける	続けていくのは、やや難しい	続けていくのは、かなり難しい	無回答
全体	16.9	48.0	9.4	6.9	18.9

主な介護者が今後も働きながら介護を続けていける見込みを勤務形態別にみると、「問題なく続けていける」と「問題はあるが何とか続けていける」を合わせた「続けていける」と回答した人の割合は、フルタイムで働いている人が67.0%、パートタイムで働いている人が62.4%であり、フルタイムで働いている人が4.6ポイント上回っている。また、「続けていくのはやや難しい」と「続けていくのはかなり難しい」を合わせた「続けていくのは難しい」と回答した人の割合についても、フルタイムで働いている人が18.6%、パートタイムで働いているでは13.6%であり、フルタイムで働いている人が5.0ポイント上回っている。

図表4-3-7 主な介護者が働きながら介護を続けていける見込み（勤務形態別）
 （上段：回答数、下段：構成比）

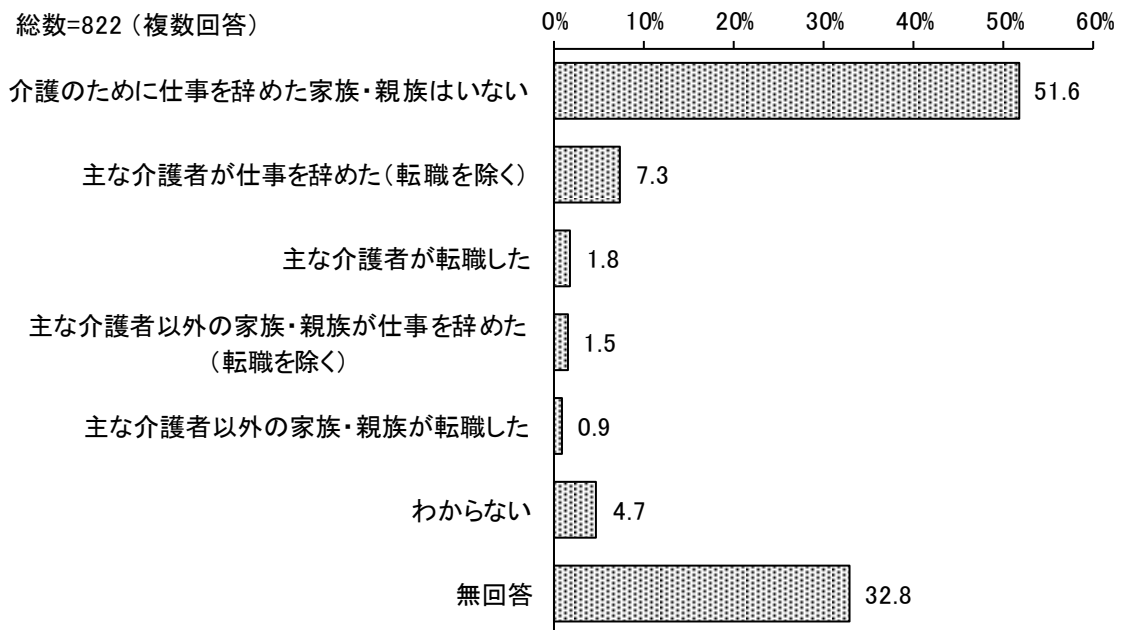
		全体	問題なく、 続けていける	問題はあるが、 何とか続けていける	続けていくのは、 やや難しい	続けていくのは、 かなり難しい	無回答
全体		350	59	168	33	24	66
		100.0	16.9	48.0	9.4	6.9	18.9
勤務 形態	フルタイムで働いている	188	37	89	21	14	27
		100.0	19.7	47.3	11.2	7.4	14.4
パートタイムで働いている	162	22	79	12	10	39	
	100.0	13.6	48.8	7.4	6.2	24.1	

(4) 介護離職の状況

問9 ご家族や親族の中で、封筒のあて名の方の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。(〇はいくつでも)

介護を理由とした離職・転職の状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が51.6%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職を除く)」が7.3%、「主な介護者が転職した」が1.8%、となっている。

図表4-3-8 介護を理由とした離職・転職の状況



介護を理由とした離職・転職の状況を被介護者の要介護度別にみると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職を除く）」では、要介護3が13.4%で最も高く、前後の介護度を7ポイント以上回っている。

図表4-3-9 介護を理由とした離職・転職の状況（被介護者の要介護度別）
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	主な介護者が仕事を辞めた（転職を除く）	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職を除く）	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答
全体		822 100.0	60 7.3	12 1.5	15 1.8	7 0.9	424 51.6	39 4.7	270 32.8
被介護者の要介護度	要介護1	222 100.0	12 5.4	1 0.5	2 0.9	2 0.9	129 58.1	5 2.3	71 32.0
	要介護2	244 100.0	14 5.7	4 1.6	6 2.5	-	120 49.2	15 6.1	86 35.2
	要介護3	112 100.0	15 13.4	3 2.7	5 4.5	1 0.9	55 49.1	4 3.6	31 27.7
	要介護4	78 100.0	3 3.8	1 1.3	1 1.3	3 3.8	40 51.3	6 7.7	24 30.8
	要介護5	61 100.0	6 9.8	2 3.3	-	1 1.6	35 57.4	2 3.3	16 26.2
	要支援1・2、サービス事業対象者	15 100.0	1 6.7	-	-	-	8 53.3	-	6 40.0
	わからない	6 100.0	-	-	-	-	4 66.7	1 16.7	1 16.7
	無回答	84 100.0	9 10.7	1 1.2	1 1.2	-	33 39.3	6 7.1	35 41.7

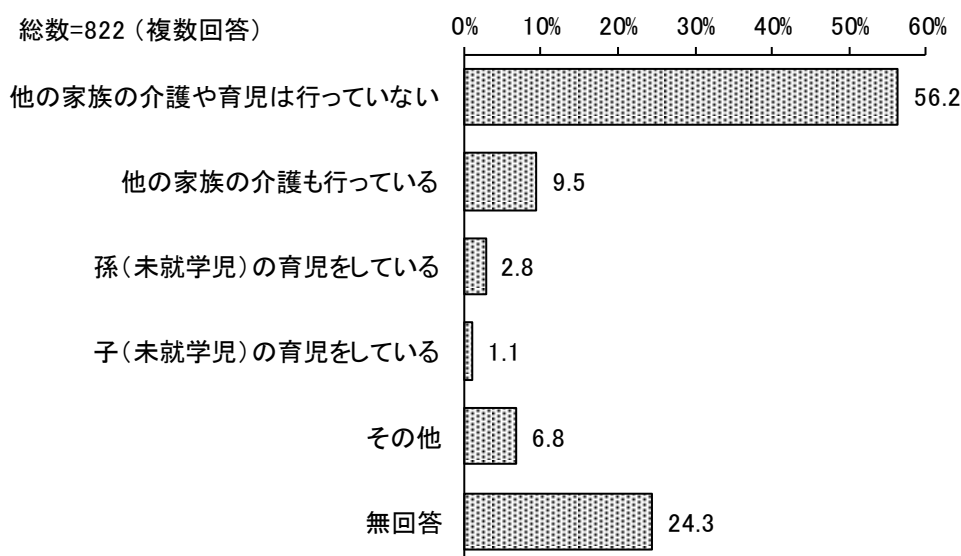
4 育児や他の家族の介護の状況について

(1) 育児や他の家族の介護の状況

問10 主な介護者の方は、封筒のあて名の方の介護以外に、育児や他のご家族の介護も行っていますか。(〇はいくつでも)

主な介護者の育児や他の家族の介護の状況は、「他の家族の介護や育児は行ってない」の割合が56.2%で最も高く、次いで「他の家族の介護も行っている」が9.5%、「孫(未就学児)の育児をしている」が2.8%となっている。

図表4-4-1 育児や他の家族の介護の状況



主な介護者の性別でみると、育児や他の家族の介護を行っていると回答した人の割合の合計は、女性が15.6%、男性が8.5%となっており、女性が男性を7.1ポイント上回っている。

また、主な介護者の年代別にみると、「50歳代女性」の「他の家族の介護も行っている」の22.4%が最も高い。

図表4-4-2 育児や他の家族の介護の状況（主な介護者の性別・年代別）
（上段：回答数、下段：構成比）

	全体	子（未就学児）の 育児をしている	孫（未就学児）の 育児をしている	他の家族の介護も 行っている	他の家族の介護や 育児は行っていない	その他	無回答	
全体	822 100.0	9 1.1	23 2.8	78 9.5	462 56.2	56 6.8	200 24.3	
主な介護者の性別・年代別	男性全体	258 100.0	1 0.4	5 1.9	16 6.2	162 62.8	11 4.3	64 24.8
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	15 100.0	1 6.7	-	1 6.7	11 73.3	1 6.7	2 13.3
	50歳代	42 100.0	-	-	4 9.5	31 73.8	4 9.5	3 7.1
	60歳代	64 100.0	-	4 6.3	3 4.7	48 75.0	1 1.6	8 12.5
	70歳代	57 100.0	-	1 1.8	5 8.8	33 57.9	2 3.5	16 28.1
	80歳以上	80 100.0	-	-	3 3.8	39 48.8	3 3.8	35 43.8
	女性全体	546 100.0	7 1.3	17 3.1	61 11.2	293 53.7	44 8.1	129 23.6
	20歳代	2 100.0	-	-	-	2 100.0	-	-
	30歳代	4 100.0	2 50.0	-	-	1 25.0	-	1 25.0
	40歳代	36 100.0	2 5.6	-	6 16.7	19 52.8	6 16.7	4 11.1
	50歳代	107 100.0	2 1.9	2 1.9	24 22.4	54 50.5	10 9.3	15 14.0
	60歳代	148 100.0	-	10 6.8	19 12.8	87 58.8	10 6.8	24 16.2
	70歳代	130 100.0	-	4 3.1	8 6.2	70 53.8	7 5.4	42 32.3
	80歳以上	119 100.0	1 0.8	1 0.8	4 3.4	60 50.4	11 9.2	43 36.1
無回答	18 100.0	1 5.6	1 5.6	1 5.6	7 38.9	1 5.6	7 38.9	

勤務形態別にみると、育児や他の家族の介護を行っている人と回答した人の割合の合計は、「フルタイムで働いている」が15.9%、「パートタイムで働いている」が16.7%、「働いていない」が11.4%となっており、働いている人が働いていない人を5ポイント程度上回っている。

また、「他の家族の介護や育児は行っていない」と回答した人の割合については、働いている人が働いていない人を8.2～10.8ポイント上回っている。

図表4-4-3 育児や他の家族の介護の状況（勤務形態別）

（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	子（未就学児）の 育児をしている	孫（未就学児）の 育児をしている	他の家族の介護も 行っている	他の家族の介護や 育児は行っていない	その他	無回答
全体		822 100.0	9 1.1	23 2.8	78 9.5	462 56.2	56 6.8	200 24.3
勤務 形態	フルタイムで働いている	188 100.0	4 2.1	6 3.2	20 10.6	117 62.2	11 5.9	30 16.0
	パートタイムで働いている	162 100.0	2 1.2	3 1.9	22 13.6	105 64.8	11 6.8	23 14.2
	働いていない	430 100.0	3 0.7	13 3.0	33 7.7	232 54.0	31 7.2	119 27.7
	無回答	42 100.0	- -	1 2.4	3 7.1	8 19.0	3 7.1	28 66.7

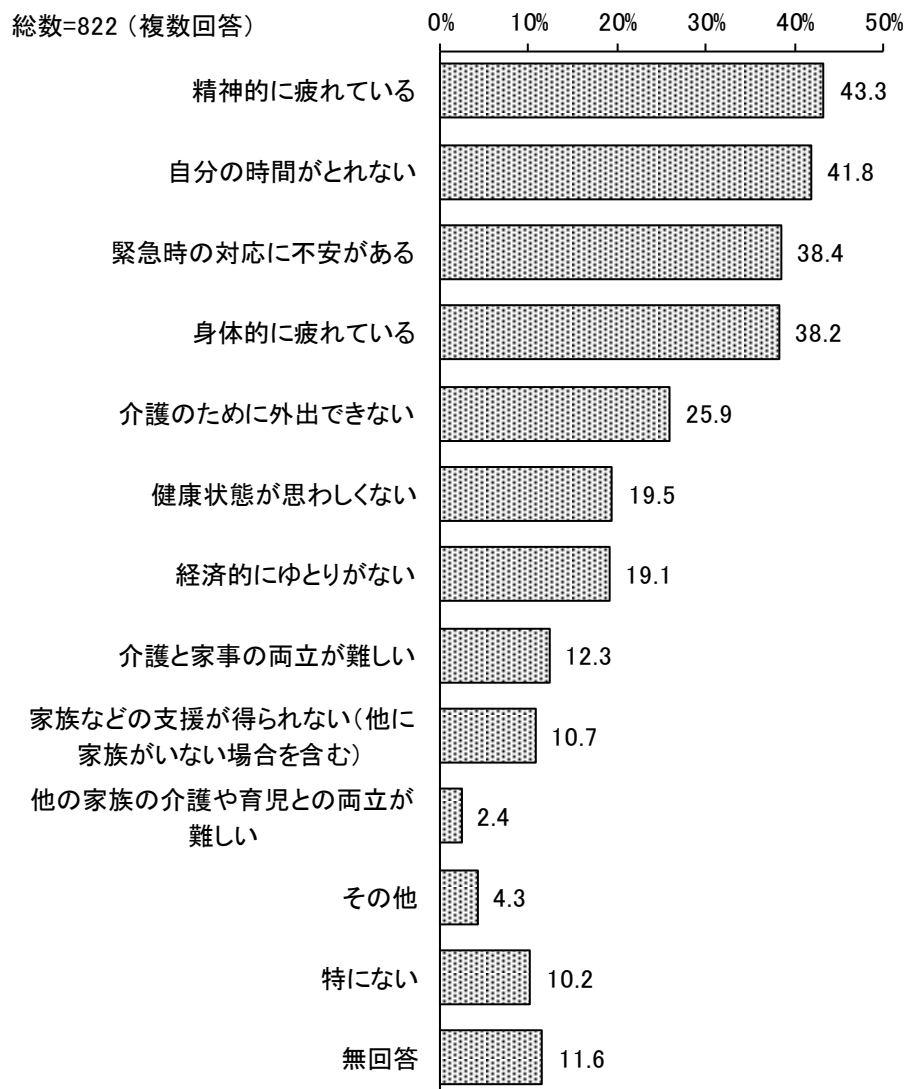
5 主な介護者の困りごとなどについて

(1) 主な介護者の介護と仕事の両立以外の困りごと

問11 主な介護者の方は、介護と仕事との両立以外にどのようなことにお困りですか。
(〇はいくつでも)

主な介護者の介護と仕事の両立以外の困りごとは、「精神的に疲れている」が43.3%で最も高く、次いで「自分の時間がとれない」が41.8%、「緊急時の対応に不安がある」が38.4%、「身体的に疲れている」が38.2%となっている。

図表4-5-1 介護と仕事の両立以外の困りごと



介護と仕事の両立以外の困りごとを主な介護者の性別でみると、「介護と家事の両立が難しい」、「身体的に疲れている」、「精神的に疲れている」、「健康状態が思わしくない」で女性が男性を6.4～9.8ポイント上回っている。

図表4-5-2 介護と仕事の両立以外の困りごと（主な介護者の性別・年代別）

（上段：回答数、下段：構成比）

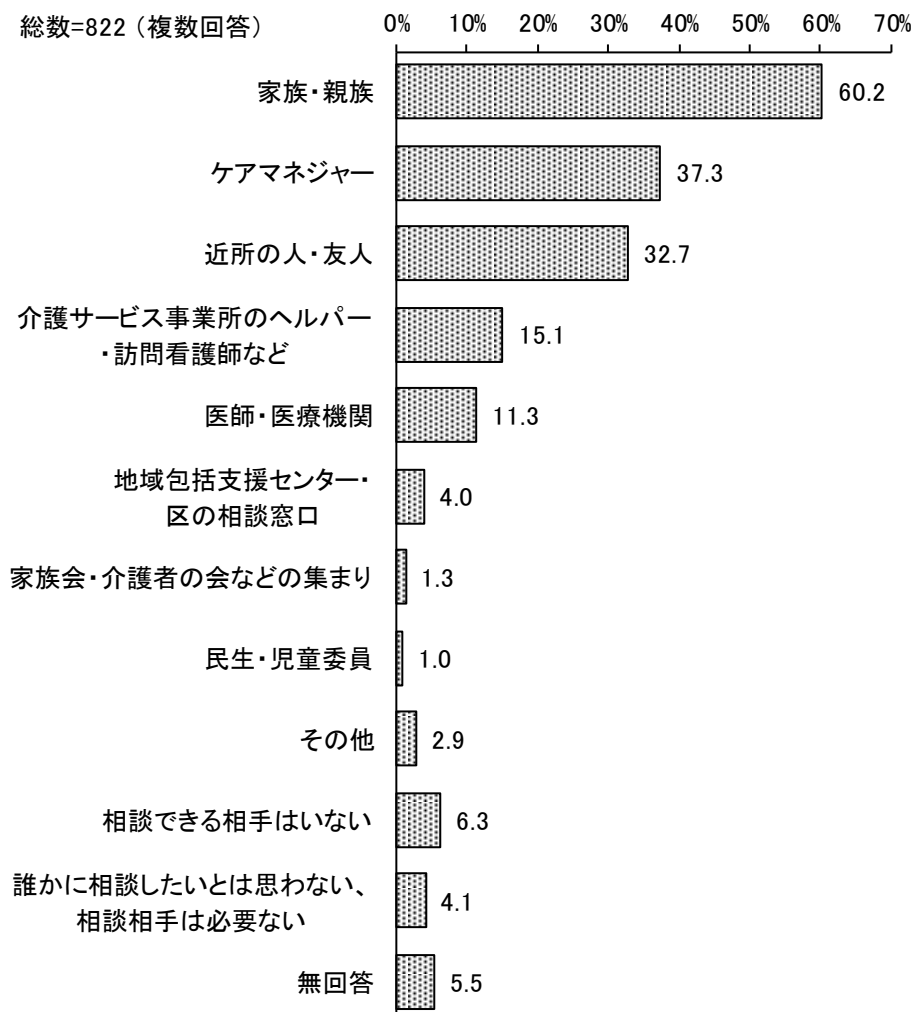
		全体	介護のために外出できない	他の家族の介護や育児との両立が難しい	介護と家事の両立が難しい	自分の時間がとれない	（他に家族がいない場合を含む） 家族などの支援が得られない	身体的に疲れている	精神的に疲れている	健康状態が思わしくない	経済的にゆとりがない	緊急時の対応に不安がある	その他	特にない	無回答
全体		822 100.0	213 25.9	20 2.4	101 12.3	344 41.8	88 10.7	314 38.2	356 43.3	160 19.5	157 19.1	316 38.4	35 4.3	84 10.2	95 11.6
主な介護者の性別・年代別	男性全体	258 100.0	68 26.4	6 2.3	21 8.1	106 41.1	24 9.3	82 31.8	102 39.5	37 14.3	50 19.4	102 39.5	8 3.1	28 10.9	22 8.5
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	15 100.0	5 33.3	1 6.7	4 26.7	7 46.7	3 20.0	5 33.3	6 40.0	1 6.7	6 40.0	7 46.7	-	1 6.7	1 6.7
	50歳代	42 100.0	4 9.5	-	3 7.1	19 45.2	3 7.1	12 28.6	14 33.3	5 11.9	8 19.0	19 45.2	1 2.4	4 9.5	2 4.8
	60歳代	64 100.0	25 39.1	4 6.3	6 9.4	34 53.1	6 9.4	23 35.9	35 54.7	13 20.3	17 26.6	29 45.3	2 3.1	1 1.6	-
	70歳代	57 100.0	18 31.6	1 1.8	3 5.3	19 33.3	5 8.8	18 31.6	23 40.4	6 10.5	14 24.6	19 33.3	2 3.5	7 12.3	6 10.5
	80歳以上	80 100.0	16 20.0	-	5 6.3	27 33.8	7 8.8	24 30.0	24 30.0	12 15.0	5 6.3	28 35.0	3 3.8	15 18.8	13 16.3
	女性全体	546 100.0	143 26.2	14 2.6	79 14.5	233 42.7	64 11.7	227 41.6	248 45.4	119 21.8	105 19.2	209 38.3	26 4.8	52 9.5	72 13.2
	20歳代	2 100.0	2 100.0	-	1 50.0	2 100.0	-	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-
	30歳代	4 100.0	-	-	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	2 50.0
	40歳代	36 100.0	7 19.4	3 8.3	6 16.7	11 30.6	3 8.3	16 44.4	16 44.4	6 16.7	9 25.0	13 36.1	1 2.8	4 11.1	5 13.9
	50歳代	107 100.0	26 24.3	6 5.6	25 23.4	64 59.8	20 18.7	55 51.4	58 54.2	24 22.4	26 24.3	53 49.5	5 4.7	9 8.4	2 1.9
	60歳代	148 100.0	41 27.7	4 2.7	13 8.8	68 45.9	19 12.8	63 42.6	68 45.9	32 21.6	29 19.6	59 39.9	7 4.7	17 11.5	9 6.1
	70歳代	130 100.0	38 29.2	-	16 12.3	47 36.2	13 10.0	51 39.2	61 46.9	27 20.8	27 20.8	44 33.8	4 3.1	12 9.2	28 21.5
80歳以上	119 100.0	29 24.4	1 0.8	17 14.3	41 34.5	8 6.7	40 33.6	42 35.3	28 23.5	12 10.1	37 31.1	9 7.6	10 8.4	26 21.8	
無回答	18 100.0	2 11.1	-	1 5.6	5 27.8	-	5 27.8	6 33.3	4 22.2	2 11.1	5 27.8	1 5.6	4 22.2	1 5.6	

(2) 主な介護者の相談相手

問12 主な介護者の方は、介護をされていてつらいとき、愚痴をこぼしたり相談する相手はいますか。(〇はいくつでも)

主な介護者の相談相手は、「家族・親族」が60.2%で最も高く、次いで「ケアマネジャー」が37.3%、「近所の人・友人」が32.7%となっている。

図表4-5-3 主な介護者の相談相手



主な介護者の相談相手を主な介護者の性別で見ると、「家族・親族」、「近所の人・友人」等では女性が男性を上回っており、一方で「介護サービス事業所のヘルパー、訪問看護師など」等では、男性が女性を上回っている。

図表4-5-4 主な介護者の相談相手（主な介護者の性別・年代別）

（上段：回答数、下段：構成比）

	全体	家族・親族	近所の人・友人	民生・児童委員	家族会・介護者の会などの集まり	ケアマネジャー	医師・医療機関	ヘルパー・訪問看護師などの介護サービス事業所	地域包括支援センター・区の相談窓口	その他	相談できる相手はいない	誰かに相談したいとは思わない、相談相手は必要ない	無回答	
全体	822 100.0	495 60.2	269 32.7	8 1.0	11 1.3	307 37.3	93 11.3	124 15.1	33 4.0	24 2.9	52 6.3	34 4.1	45 5.5	
主な介護者の性別・年代別	男性全体	258 100.0	138 53.5	45 17.4	3 1.2	2 0.8	91 35.3	34 13.2	51 19.8	16 6.2	9 3.5	24 9.3	17 6.6	13 5.0
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	15 100.0	7 46.7	1 6.7	-	-	4 26.7	1 6.7	1 6.7	-	-	6 40.0	-	1 6.7
	50歳代	42 100.0	24 57.1	6 14.3	-	-	16 38.1	3 7.1	7 16.7	1 2.4	2 4.8	5 11.9	3 7.1	2 4.8
	60歳代	64 100.0	40 62.5	22 34.4	1 1.6	1 1.6	22 34.4	10 15.6	17 26.6	6 9.4	2 3.1	2 3.1	4 6.3	1 1.6
	70歳代	57 100.0	28 49.1	3 5.3	-	1 1.8	21 36.8	7 12.3	9 15.8	1 1.8	2 3.5	6 10.5	4 7.0	3 5.3
	80歳以上	80 100.0	39 48.8	13 16.3	2 2.5	-	28 35.0	13 16.3	17 21.3	8 10.0	3 3.8	5 6.3	6 7.5	6 7.5
	女性全体	546 100.0	345 63.2	223 40.8	5 0.9	9 1.6	208 38.1	58 10.6	70 12.8	17 3.1	15 2.7	28 5.1	16 2.9	32 5.9
	20歳代	2 100.0	2 100.0	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	4 100.0	2 50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 25.0	1 25.0
	40歳代	36 100.0	24 66.7	14 38.9	1 2.8	-	15 41.7	4 11.1	4 11.1	1 2.8	2 5.6	3 8.3	-	2 5.6
	50歳代	107 100.0	67 62.6	62 57.9	2 1.9	1 0.9	42 39.3	7 6.5	15 14.0	2 1.9	3 2.8	6 5.6	2 1.9	1 0.9
	60歳代	148 100.0	101 68.2	68 45.9	-	4 2.7	59 39.9	17 11.5	25 16.9	3 2.0	3 2.0	7 4.7	4 2.7	3 2.0
	70歳代	130 100.0	73 56.2	42 32.3	-	3 2.3	50 38.5	16 12.3	17 13.1	4 3.1	5 3.8	6 4.6	4 3.1	14 10.8
	80歳以上	119 100.0	76 63.9	36 30.3	2 1.7	1 0.8	41 34.5	14 11.8	9 7.6	7 5.9	2 1.7	6 5.0	5 4.2	11 9.2
無回答	18 100.0	12 66.7	1 5.6	-	-	8 44.4	1 5.6	3 16.7	-	-	-	1 5.6	-	

主な介護者の相談相手を勤務形態別にみると、相談相手の傾向に大きな差はみられないが、「近所の人・友人」を相談相手としている人では、「フルタイムで働いている」が31.9%、「働いていない」が30.9%であるのに対し、「パートタイムで働いている」は42.6%となっており、10.7~11.7ポイントの差が生じている。

図表4-5-5 主な介護者の相談相手（勤務形態別）

（上段：回答数、下段：構成比）

	全体	家族・親族	近所の人・友人	民生・児童委員	家族会・介護者の会などの集まり	ケアマネジャー	医師・医療機関	ヘルパー・介護サービス事業者の訪問看護師など	地域包括支援センター・区の相談窓口	その他	相談できる相手はいない	誰かに相談したいとは思わない、相談相手は必要ない	無回答	
全体	822 100.0	495 60.2	269 32.7	8 1.0	11 1.3	307 37.3	93 11.3	124 15.1	33 4.0	24 2.9	52 6.3	34 4.1	45 5.5	
勤務形態	フルタイムで働いている	188 100.0	110 58.5	60 31.9	1 0.5	1 0.5	69 36.7	16 8.5	28 14.9	7 3.7	5 2.7	19 10.1	14 7.4	5 2.7
	パートタイムで働いている	162 100.0	95 58.6	69 42.6	-	1 0.6	62 38.3	22 13.6	24 14.8	2 1.2	6 3.7	11 6.8	2 1.2	4 2.5
	働いていない	430 100.0	271 63.0	133 30.9	5 1.2	8 1.9	162 37.7	47 10.9	66 15.3	22 5.1	11 2.6	22 5.1	17 4.0	22 5.1
	無回答	42 100.0	19 45.2	7 16.7	2 4.8	1 2.4	14 33.3	8 19.0	6 14.3	2 4.8	2 4.8	-	1 2.4	14 33.3

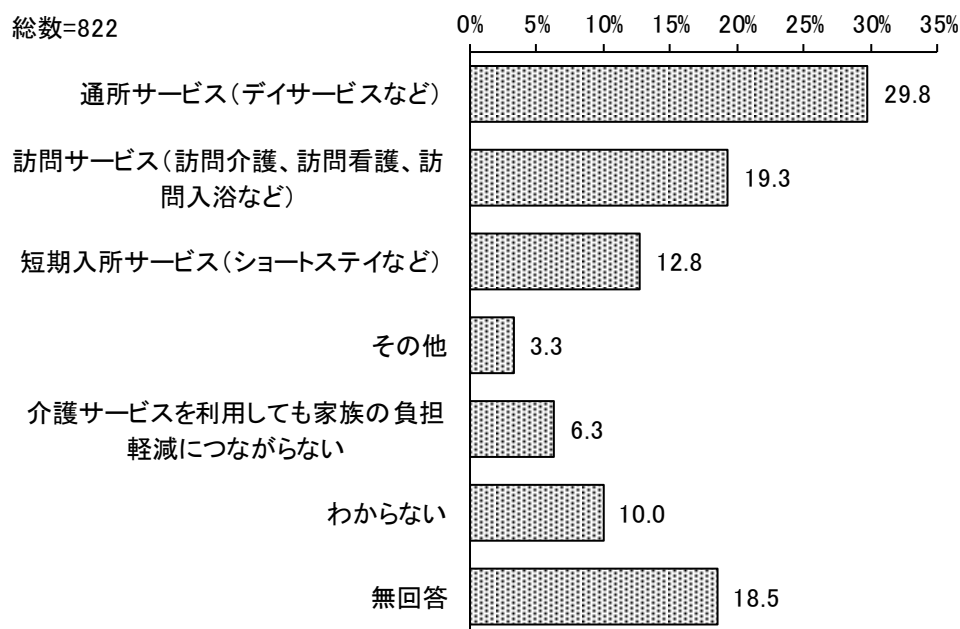
6 主な介護者の負担軽減・支援について

(1) 家族介護者の負担軽減につながる介護サービス

問13 介護サービスのうち、介護する方の負担の軽減に最もつながっていると思うものはどれですか。(〇は1つ)

介護する方の負担軽減につながっていると思うサービスは、「通所サービス(デイサービスなど)」の割合が29.8%で最も高く、次いで「訪問サービス(訪問介護、訪問看護、訪問入浴など)」が19.3%、「短期入所サービス(ショートステイなど)」が12.8%となっている。

図表4-6-1 家族介護者の負担軽減につながる介護サービス

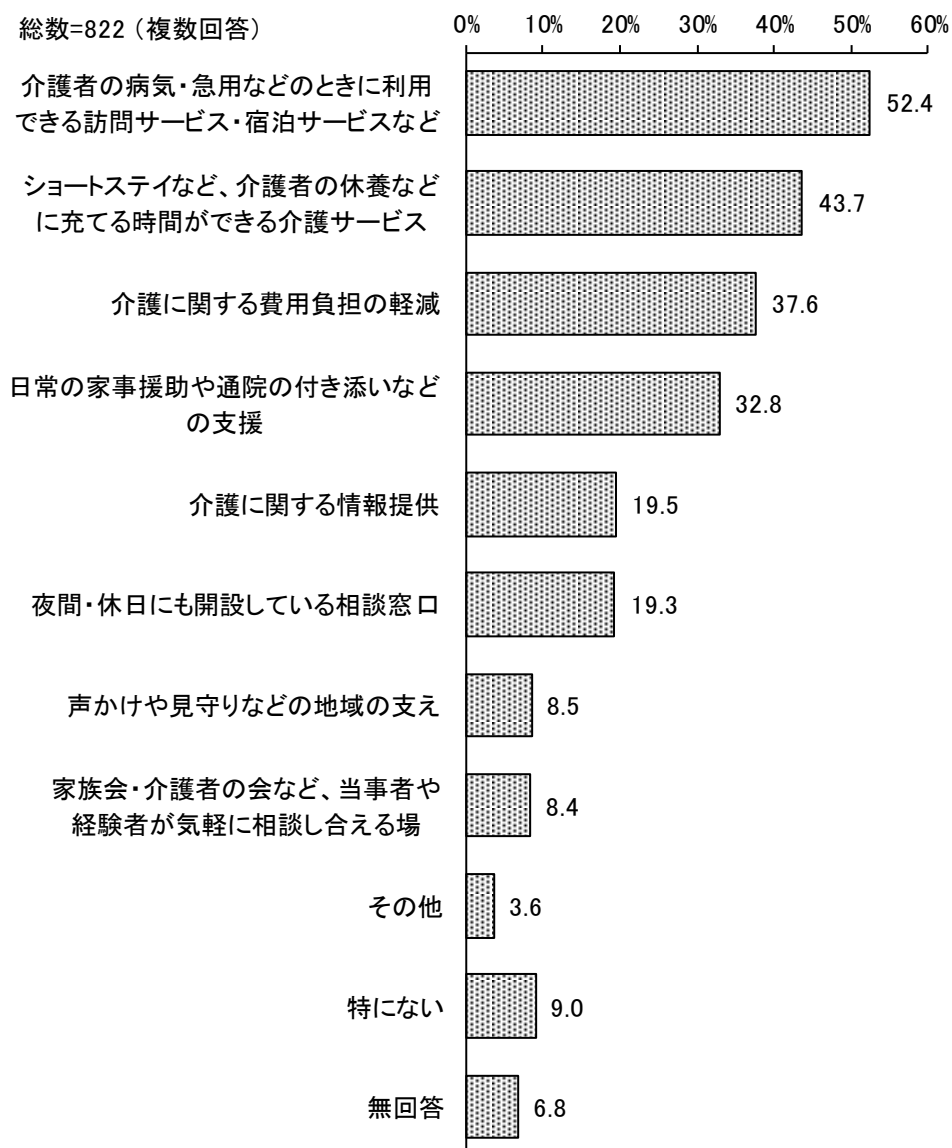


(2) 主な介護者が求める支援

問14 主な介護者の方は、安心して介護をするためには、どのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

主な介護者が必要と考えている支援は、「介護者の病気・急用などのときに利用できる訪問サービス・宿泊サービスなど」が52.4%で最も高く、次いで「ショートステイなど、介護者の休養などに充てる時間ができる介護サービス」が43.7%、「介護に関する費用負担の軽減」が37.6%となっている。

図表4-6-2 主な介護者が求める支援

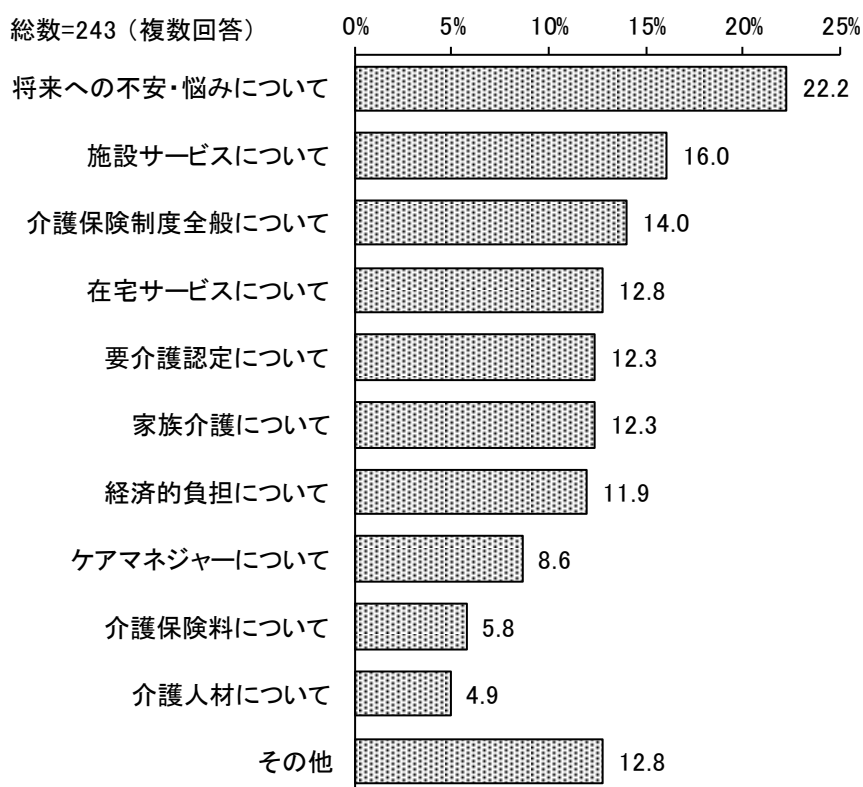


7 自由意見

問15 目黒区の介護保険・高齢者福祉行政に関してご意見やご提案がありましたら、お聞かせください。はじめに、1～11のあてはまる項目に○を付け（○はいくつでも）、その項目についてのご意見・ご提案をお書きください。

「将来への不安・悩みについて」が22.2%で最も高く、次いで「施設サービスについて」が16.0%、「介護保険制度全般について」が14.0%となっている。

図表4-7-1 自由意見



以下に、各項目について、原文の文意が損なわれないよう抜粋して記載した。

介護制度全般について

- 高齢者が増えるのがわかっていたことなのだから、税金そのものをもっと福祉に使うべき。一般市民ばかりからとることを考えるだけではなく、あり方そのものを見直すほうがいいと考えます。無駄なものに税金を使う余裕があるのだから。
- 高額介護保険料を支払いながら、いざ介護サービスを受ける立場になっても、さらに介護保険料を支払い続け、介護サービス利用料も支払う二重取りともとれる制度に納得

できない。

- 知識不足でわからないことがたくさんあります。相談窓口で教えてもらって初めてこんな制度もあると知ることもあります。情報が広く伝わるように工夫していただけたらと思います。
- 介護保険全般に思うことは、書類の多さ、何かあるごとに書類を作り署名・押印を求められる。ケアマネジャーや介護職員が常に書類作成に追われている様子で、もっと効率的な方法があるのではないかと感じる。
- 国は在宅療養に移行していくようだが自宅で介護するのも限界がある。これからは老々介護が増えると思われる。安心して預けられる介護施設を（保険で利用できる）増やしてほしい。

介護保険料について

- 保険料は安い程よい。
- 今は仕事もしていますが、収入もギリなのでこれ以上税金や保険料が上がると生活に困ります。
- 夫婦とも年金生活をしている。自分が病気のために2ヶ月に1回の割合で通院しており高額な治療費がかかるため、自分自身の介護保険料も含めて安い方がよい。
- 保険料について、資産を持つ高齢者からの負担割合を増やしても良いと思う。
- 保険料は一定の年齢に達するかまたは要介護認定を受けた時点で免除または減額されるべき。年金と同様のシステムに見直されることを期待したい。

要介護認定について

- 査定項目の明細と採点基準、結果を開示してほしい。
- 認定の基準方法を知りたい。認定方法にばらつきがある。
- 介護認定をいただけるまでに日にちがかかりすぎるような気がします。家族は少しでも早く認定していただけるように希望します。
- 認定調査員の方が家に来た時、「母とだけ話しをしたいので娘さんは出て行ってください」と言われ要介護を減らされた。認知症があるので、他人に誘導されると「できる」と答えてしまい、介護をしている私の話を一言も聞かずに認定されるというのでしょうか？すぐに異議申し立てをして元の要介護度になりましたが不信感でいっぱいです。
- 難しいことと思いますが、できるだけ公正であってほしい。
- 要介護の認定方法について考えてほしい。認定調査員によって介護度が変わったり、短い時間で判定されると正しい認定ができないのではと思うので。
- 介護認定基準が年々高くなり、高額な施設に入れるしかなくなる。特養になかなか入れない現状。

在宅サービスについて

- 特に手すりの設置については素晴らしい制度です。
- ショートステイ、デイサービスがどんどん閉所、廃止となっています。なんとか増やしてほしい。
- 一人住まいの高齢者が引きこもりにならないように、通所サービスの充実を希望します。
- 外泊外出予定のある時に、その時間帯に訪問してもらえるサービスがあればうれしいです。
- 休日やお正月に開いているデイサービスがあれば良い。
- 入浴のみでのサービスがあると良い。
- 目黒区は通所サービスが少なく、また近頃は閉鎖する事業所があって、なかなか希望するところの空きがない。
- 現在、小規模多機能のデイサービス、訪問診療、訪問看護を利用しながら介護していますが、困りごとには対応してもらえているので大変助かっています。
- 介護保険で受けられるサービス、要介護・要支援の違い等、わからないことが多すぎる。ケアマネジャーによって通所できるところが限られているのはなぜでしょうか？通所先を変えるには、ケアマネジャーを代えなければならない。複数のデイサービスを組み合わせさせて通うことは不可能？
- 高次脳機能障害のある場合、通常のデイサービスであると人数が多すぎ、本人の落ち着きがなくなり、興奮したり大きな声をあげたり等と参加が難しい。65歳以上の者が参加できる高次脳機能障害に特化したサービスを作ってほしい。
- 訪問看護サービス利用のための定期的なかかりつけ医の受診が困難になりつつあるのが不安。受診拒否が著しいので。このままではサービスが利用できなくなるのでは？
- 二世帯住宅で玄関一つの場合。全く別に生活しているのに家事支援サービスが保険枠内で受けられないのは困る。

施設サービスについて

- 老健や特養、ショートステイ等々、泊まりなどできる施設を増やしていただきたい。
- 介護者急病のときの公的費用で入所可能なショートステイ施設が不足している。
- 特養や認知症の人を預かっていただけの施設がもっとあると良いと思っています。

ケアマネジャーについて

- ケアマネジャーを再教育してほしい。前回サービスを中止した経験あり。
- ケアマネジャーさんはとても良い方ですが、毎月訪問のため部屋を片付けたり負担になります。2ヶ月に1回でも良いのではないですか？
- ケアマネジャーの仕事はどんなものかよくわからない。
- いろいろ相談に乗ってもらっています。

- 人と人とのことですし相性があるので。ケアマネジャーの変更など、もっと簡単にもっと気軽に相談できる窓口を作してほしい。

介護人材について

- 今利用しているサービス全般に「人手不足」を感じ、親の介護を任せるのに不安を感じている。
- 介護施設の人員の少なさ、職員の大変さを感じる。
- 老々介護になりつつある現状ですが、今後ヘルパーさん等の支援が必要になった時に、その方が心から信頼できる人材なのかが最も懸念されるところです。
- 介護者の待遇、費用をあげてほしい。人数が少ないので体を壊したり、長続きしない人が多い。
- 介護者の人材育成をしてほしい。賃金を上げ人が集まりやすくする。
- 訪問入浴で来る若い方や外国の方は本当によく親切丁寧に仕事をしています。しかし、給料は安いようで大変そうです。もう少し彼らの彼女たちのお給料が上がると良いと思います。

経済的負担について

- 年金生活者にとっては、かなり負担が大きい。
- 今後に不安を感じており経済面の負担の軽減をお願いしたい。両親のことなので施設も考えにくく無理な状況です。介護における生活の補助として、補助金等考えてもらえればと思います。
- 年金生活者の身では負担も大きい。今後その負担割合が増えたら、自分の世代では同じようなサービスを受けるのは難しいと感じている。
- 通院時にタクシーを利用するが、予約が取りにくいので介護タクシーを利用すると高額、我が家では往復8,000～10,000円かかっている。
- オムツ代の助成額をもう少し増やしてほしい。月額5,900円だけではまかないきれない。オムツ代は毎日のことで一番お金がかかるので。

将来への不安・悩みについて

- 老々介護の維持がどこまで続けられるか、体力が心配。
- 本人が認知症のため、今後どのようなことが起きるのか心配です。その時のために、早めに施設に入居できるようにしてもらいたい。有料老人ホームは本人の収入が少ないので入居することができません。
- 私は病歴がありますので、いつまで母の介護が続けられるのか時々心配になります。週末には知的障害の家族が生活寮から帰宅するので、特に週末はきつuitと感じています。
- 私は81歳で今は健康ですが、万が一介護ができなくなった時にすぐ入れる特養などの枠を広げていただきたい。

- 私自身癌の手術を受け、また交通事故の後遺症で足が不自由なので、震災等があった時にどうしたらよいか不安です。
- 二人共倒れの時が不安です。
- 近い将来体が減退し介護ができなくなった時、老人ホームなどの施設に入れるかどうか心配だ。

家族介護について

- 介護者も老人です。介護者にも支援をよろしくお願いいたします。
- 認知症の父を母と娘で介護しています。母も持病があり、数年前から二人暮らしはもう無理と言われていました。今年介護のストレスから母が入院しました。いつまでこの生活を続けたいのか。悩みながら毎日過ごしています。こういうケースの家庭を救う方法はないのかと考えます。
- 独居の方には介護だけでなく、様々なヘルパー要請ができるのが、家族がいる場合でもフォローしてもらえそうなシステムがあるとありがたいと思う。
- 家族の介護は随分と犠牲が伴います。それは表に出にくく気づかれにくいです。介護者が高齢になるとなおさらと思われれます。行政がもっときめ細かくできる仕組みが必要です。

その他

- 年金生活の85歳の叔母は、なかなか入れる部屋がなく本当に大変でした。せっかく、未だ施設にも入らず自立している人なのに。生活保護を受けた方が住居が見つかるかもと思ったくらいです。高齢化が進んでいるので、基本的な住居問題をもっと考えてほしいです。
- 台風のような災害時、区としてのバックアップ体制がない。ライフラインが途絶えたり、電源がアウトになったらかなり厳しい現状と思う。東京電力は、人工呼吸器使用者をリストアップし、災害時に「回復までのおおよその時間」を連絡してくださる。こうしたリストは「申請式」でなく、「福祉行政」で把握している人たちを東京電力と協働して作っておくなどが絶対に必要。そうでなければ、「知らなくて申請しない人」は対策から漏れてしまう。
- 何に気をつけて何を準備すれば良いのか？どのような補助制度があり、利用するためにはどうしたらいいのか？などは、専門家のアドバイスをいただかないとなかなか自分たちだけでは知ることができないことが多いです。
- 認知症の人の「意思」というものがどういうものなのか、きちんとした見解がほしい。「本人の意思」という言葉はどういう時に使われ、使えるのか？「意思」と判断する基準を示してほしい。